

林 慎将 (2019 年度日本英語学会新人賞受賞)

この度は、身に余る賞をいただき誠にありがとうございます。指導教員の西岡宣明教授、いつも日ごろの研究生活で指導してくださる先輩方には感謝してもしきれません。西岡先生のご指導を日々受け、先輩方が国内外で活躍されている姿を見るにつけ、(もちろんそれに甘えてはいけません)先生、先輩方について行けばきちんと研究者として立派に研究できるのだと安心できるので、日々自由にのびのび研究ができます。そういう無駄なことに不安を感じなくて良いことほど研究生活でありたいことはありません。また、拙論文を審査いただきました先生方、EL 編集委員会の先生方、選考委員の先生方にも選考過程で非常にお世話になりました。心よりお礼を申し上げます。

本論文は、英語の制限関係節と非制限関係節の違いに焦点を当て、制限関係節よりも独立性の高い非制限関係節のふるまいについて自由併合の枠組みの下での説明を探ったものです。現在の生成文法理論では、補部/付加詞の違いに対して **set/pair Merge** の二つの操作が想定されていますが、同じ付加詞である制限/非制限関係節の対立はこの **set/pair Merge** の区別からは導かれません。そこで、本論文では操作の適用順序について **cyclic/counter-cyclic Merge** という別の対立軸を立てることで説明を試みました。

これは修士課程での研究を発展させたものです。修士課程で最近の生成文法理論を学び、それを学部時代から続けていた関係節の一種である非制限関係節に適用したものが本論文に繋がる研究となりました。現在は、理論研究を中心に、関係節の隣接現象である *wh* 疑問文を研究しております。就職された先輩方を見ていると、自由に研究ができるのは博士課程までなのかなとも思います。研究に自由に使える時間を大切にしながら、楽しく研究を続けていきたいと思っています。

新人賞をいただいた後は鳴かず飛ばずでは非常に格好悪いので、今後とも研究に邁進し、大好きなアカデミアに少しでも貢献ができればと思っております。

来年、世間をあっと言わせる博士論文を上梓いたします。私はまだ研究の路に入って間もない博士課程の身ですので、文字通りの新人でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。